

株式会社クレハ
第109回
定時株主総会



2022年6月24日

**新型コロナウイルス感染症で体調を崩されている
皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
また医療関係者の皆様をはじめ、
社会を支えてくださっている方々に、
心より敬意と感謝の意を表します。**

A large green triangle with a halftone dot pattern, pointing downwards, located on the left side of the page.A large green triangle with a halftone dot pattern, pointing upwards, located on the right side of the page.

開 会

**株主の皆様ごの安心・安全を優先し、
時間を短縮して議事を進行いたします。**

**後日当社ウェブサイトにおいて、本株主総会のうち、
「報告事項の報告」終了までを動画配信するため、
会場後方より議長席・役員席を撮影しております。**

**株主数、議決権数の報告は割愛いたしますが、
すべての議案の審議に必要な定足数を満たしている
ことを報告いたします。**

監査報告は招集ご通知に記載のとおりです。

＞ 招集ご通知 44頁～49頁

1. 報告事項の報告

2. 議案の上程

3. 報告事項および決議事項に関する質疑応答

4. 議案の採決

報告事項の報告

1. 第109期事業報告および
連結計算書類報告の件
2. 第109期計算書類報告の件

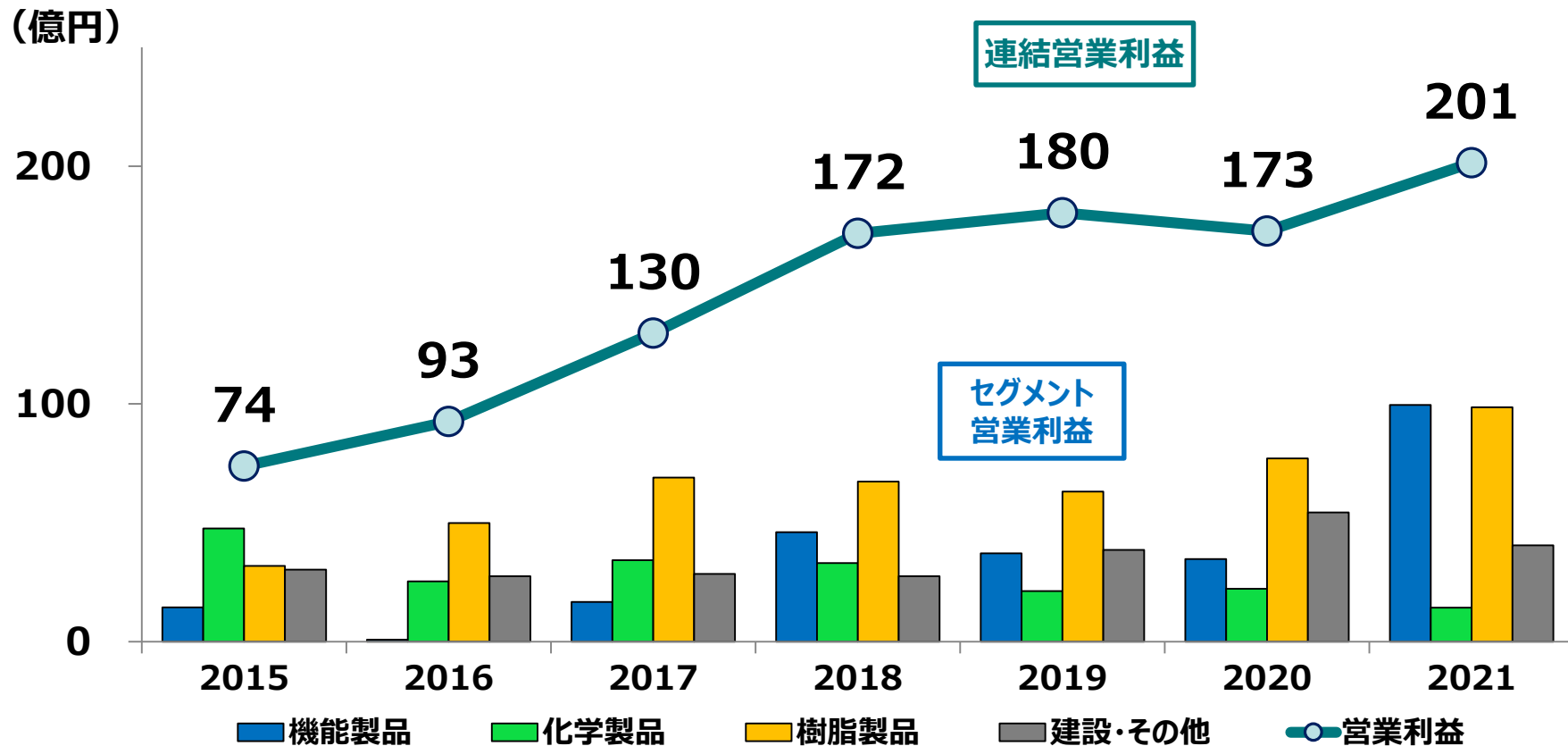
> 招集ご通知 5頁～43頁

> 当社ウェブサイトに掲載

対処すべき課題

＞ 招集ご通知 10頁～11頁

連結営業利益推移（2015～2021年度）



2022年度
の位置付け

中計ストレッチFinal stageの完遂と 次期中期経営計画の準備年度

- 「Kureha's Challenge 2022」
(中計ストレッチ Final stage)
 - ・前中計での未達成課題の完遂
 - ・将来に向けたアクションプランづくり

- クレハの「ありたい姿」
スペシャリティ・ケミカル分野において
差別化した製品を開発し、
社会に貢献し続ける高付加価値型企業



2022年度 定量目標

(単位：億円)

	2021年度 実績	2022年度 予想	前期比	
			金額	%
売上収益	1,683	1,800	+117	+6.9%
営業利益	201	220	+19	+9.2%
税引前利益	204	220	+16	+7.9%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	142	160	+18	+13.0%
年間配当金	210円/株	250円/株	+40円/株	—

売上収益

増収 機能製品 +153
減収 樹脂製品△8、建設その他△32

営業利益

- 売上収益 増加
フッ化ビニリデン樹脂、PPS樹脂等の増収
家庭用品、建設、環境事業等の減収
- 原材料費 増加
- 償却費、営業経費、研究費等 増加
- 減損損失 減少

リスク

- 原燃料の価格高騰と転嫁の遅れ
- 欧州の電動車、リチウムイオン二次電池市場の成長鈍化
- 中国ゼロコロナ政策による当社拠点の休業等

● 高機能製品事業の拡大と強化

● 既存事業の競争力・収益力向上

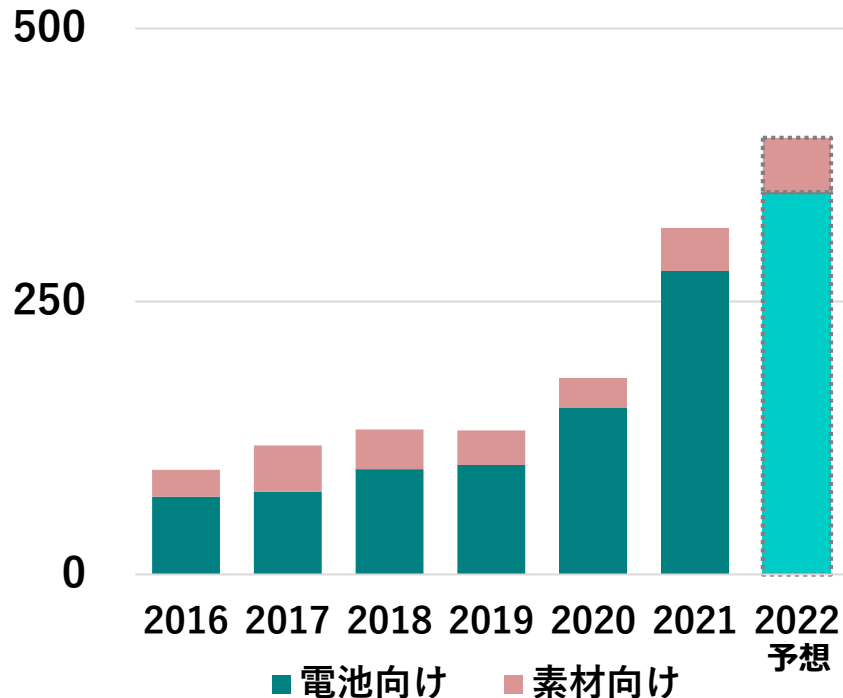
● 新規事業・技術探索

● カーボンニュートラル及びゼロエミッション対応強化

● 経営基盤強化

<フッ化ビニリデン樹脂 売上収益推移>

(単位：億円)

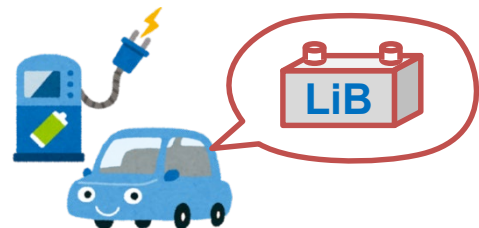


概況

- 原料高騰の転嫁に加え、付加価値の高い特殊ポリマーの販売が欧州・中国向けに拡大し、増収
- 特殊ポリマー増産投資により、リチウムイオン二次電池用バインダー向けの供給力を拡大
- 中国新工場（2024年完工予定）のほか、国内での更なる増設や第三国での生産を検討中
- 車載用電池向けバインダー市場でのシェアは約40%



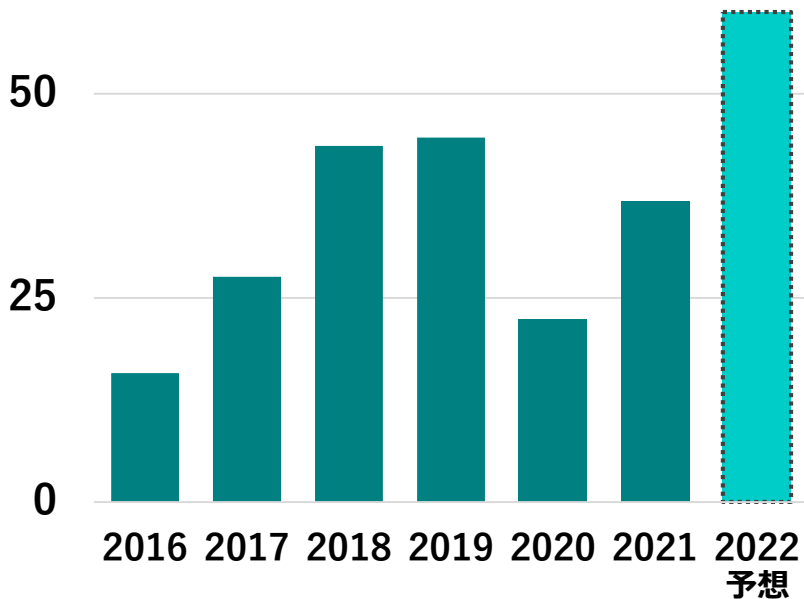
フッ化ビニリデン樹脂



リチウムイオン二次電池

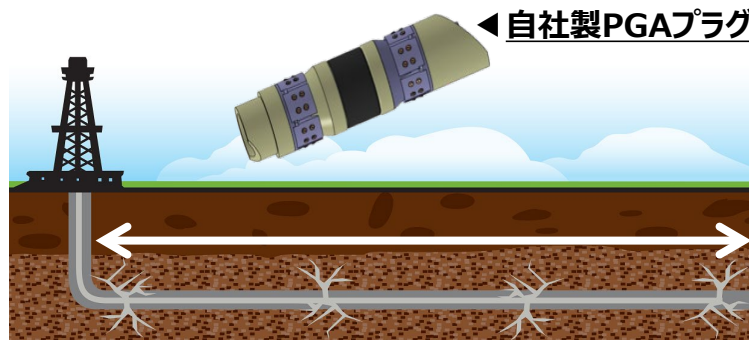
<PGA樹脂 売上収益推移>

(単位：億円)



概況

- 2021年度は、柔軟な価格対応により、フルボア採用（油井全体のプラグ使用）※が進み、増収
- 2022年度は、シェールオイル・ガスの増産を見込み、中高温鉬区向けPGAプラグを拡販
- 開発中の低温・超低温鉬区向けPGAプラグを下期に投入



※フルボア採用（油井全体でのPGAプラグ使用）

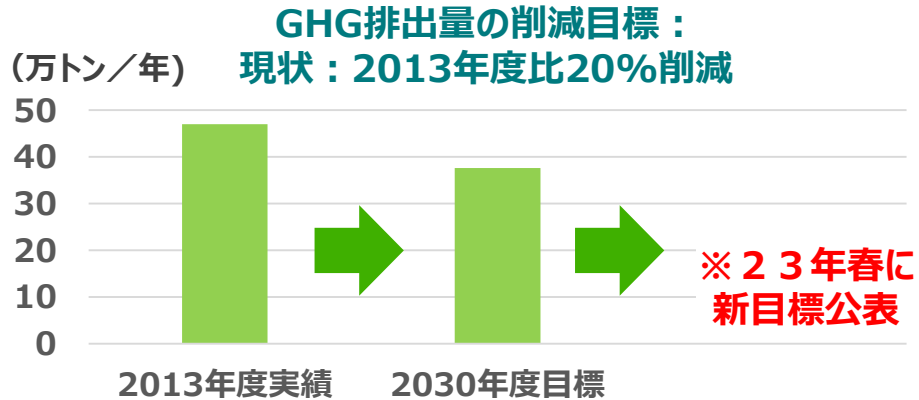
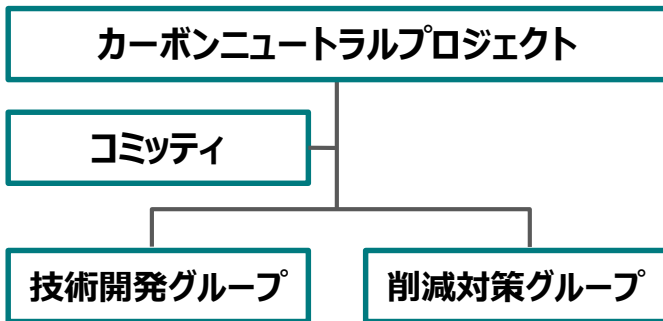
カーボンニュートラルへの挑戦

- ▶ 2050年度の「ネットゼロ」達成が目標
- ▶ 2030年度までの新たなGHG削減目標と具体的取り組みを2023年春に公表予定
- ▶ 地球環境に貢献する技術や事業の創出などを目指し、新たな施策を検討、技術開発を加速

ゼロエミッション対応強化

- ▶ 廃棄物の埋立量比率（18%、2019年度実績）を、2025年度に1.5%に低減するとともに、3R（Reduce、Reuse、Recycle）技術等を活用し、コストを削減

体制図（2022年4月1日付）



サステナビリティ経営の推進

リスクマネジメント強化

企業価値向上に向けた
諸施策の検討・強化

新人事制度の定着・多様化

- 「新人事制度」の浸透と定着
- 定年延長によるシニア層の活用、若手・中堅層の早期抜擢、グループ横断的な業務推進
- 専門分野の外部人財採用強化

デジタル化の推進

- 新基幹システムの稼働開始と有効活用
- 実装事例構築と水平展開推進
- デジタル人財育成

コスト競争力の強化

- 改革推進プロジェクト他の業務効率化、コスト低減策の推進
- カーボンニュートラルに向けた移行コストを補い、市場で勝てるコスト構造へ転換促進

**クレハグループの存続・繁栄と将来の“ありたい姿”に向けて
中期計画「Kureha's Challenge 2022」
(中計ストレッチFinal stage)
で掲げた重点施策を「やり抜く」姿勢で完遂します。**

**パッション
(情熱)**

スピード

**コミットメント
(約束)**